

# パックス・ロマーナ、「ローマの平和」とよばれた時代



前27年  
後395年

広大な領土の支配者となった  
帝政ローマの時代、  
ローマの人々は、地中海を  
「われらの海」とよんだ。

## ローマ帝国の繁栄 パックス=ロマーナの時代



## パックス・ロマーナ時代 人類史上空前の繁栄を謳歌した

オクタヴィアヌスが事実上の帝政を開始した前27年以降、古代ローマは約200年にわたって平穏な時代を迎えることになる。この時代は「パックス・ロマーナ（ローマの平和）」とよばれ、ローマ人は完全に支配権を掌握した地中海世界の中で泰平を謳歌し、産業や商業が発達するなど、経済的にも繁栄した。

とくに96～180年の五賢帝時代にローマ帝国は最盛期を迎え、五賢帝の1人、トラヤヌス帝の時代には最大版図となった。そしてローマ支配下の広大な領土の各地には、ローマ風の都市がつくられた。それら属州の都市には劇場や水道施設、公共浴場などが建設され、ローマ的な生活様式が取り入れられるようになった。今も栄えるウィーンやパリ、ロンドンなども、この時代に建設された都市である。

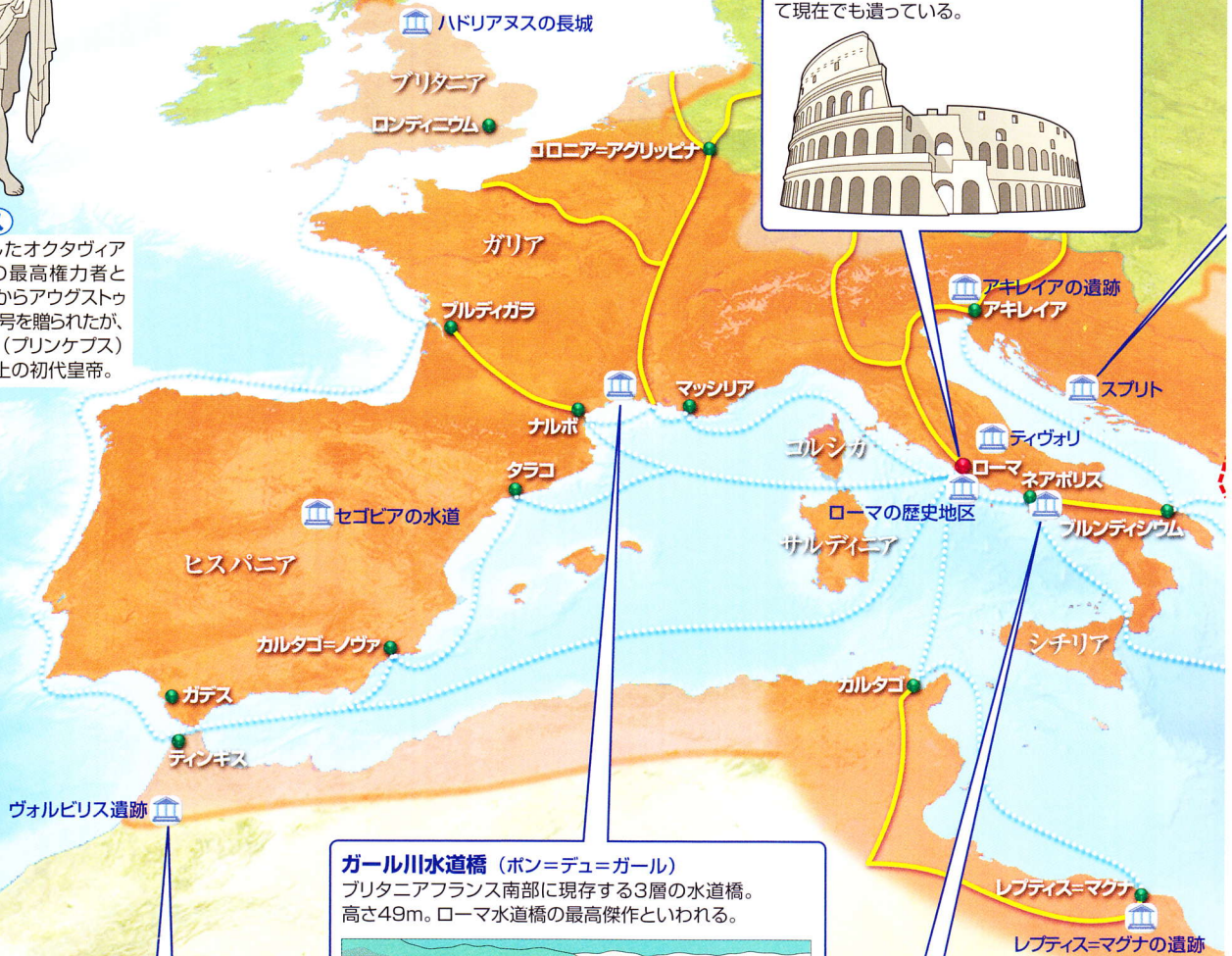
しかし、各属州が繁栄するにしたがい、首都ローマの優位はゆらぎはじめ、力をもった属州の軍隊のなかには勝手に皇帝を擁立する勢力も現れるようになった。3世紀には次々と軍人出身者が皇帝になる軍人皇帝時代となり、また属州の反乱やササン朝ペルシア（P.22参照）との抗争などにより、ローマの社会・経済は混乱することとなった。





**アウグストゥス**

地中海を統一したオクタヴィアヌスはローマの最高権力者となった。元老院からアウグストゥス(尊厳者)の称号を贈られたが、自らは第一人者(プリンケプス)と称した。事実上の初代皇帝。



**ローマ帝国の中心**  
地中海世界の政治的中心だったローマでは、100万を超える市民の人気を得るため、政治家たちによって戦車競技・剣闘士競技・演劇などの催し物がさかんに行われた。その名残はローマのコロッセウムなど遺跡として現在でも遺っている。

**モロッコに残る都市遺跡**  
ヴォルビリスはモロッコ最大の古代ローマの遺跡。2~3世紀ごろオリーブの取引で栄えた都市で、神殿や礼拝堂、浴場の跡などがある。

**ガール川水道橋 (ポン=デュ=ガール)**  
ブリタニアフランス南部に現存する3層の水道橋。高さ49m。ローマ水道橋の最高傑作といわれる。

**ポンペイ**  
ナポリ近郊の都市遺跡。79年にヴェスヴィウス山の噴火で埋もれてしまった都市に、壁画やモザイク画が遺されている。

NASA's Earth Observatory

**19世紀まで続いた「ローマ帝国」**

ローマ帝国は1453年のビザンツ帝国の滅亡によって歴史から姿を消したが、名目上は「神聖ローマ帝国」として19世紀まで存続した。962年にオットー1世が教皇から帝冠を授けられたことにはじまるこの帝国は、復興したローマ帝国としての権威を支配に利用した。しかし、近世になると神聖ローマ帝国は完全に名目的なものとなり、1806年、ナポレオン1世がライン同盟を結成したことで名実ともに解体されることとなった。

**分裂するローマ 東へ移った政治・経済の中心**  
こうした混乱に対処するため、284年に即位したディオクレティアヌス帝は専制君主政を敷き、2人の正帝・副帝による帝国の4分統治制を導入するなどの改革を行った。また、コンスタンティヌス帝はキリスト教(P.32参照)を公認して支配に利用したほか、330年には首都をコンスタンティノープルに遷都した。新首都ではソリドウス金貨とよばれる良質な貨幣が製造されたため、政治のみならず、経済の中心も東方へ移ることとなった。4世紀後半になるとゲルマン民族の侵入(P.70参照)や宗教対立などで帝国内の混乱は深まり、395年にテオドシウス帝が死去するとローマ帝国は東西に分裂した。その後、東ローマ帝国(ビザンツ帝国、P.72参照)は15世紀まで存続したが、西ローマ帝国は476年、ゲルマン民族出身の傭兵隊長オドアケルによって皇帝が廃位されたことで滅亡した。